

- ての知識を得るため、各種講習会、現地研修等を実施した。
- イ 自然の家周辺の自然環境を調査するとともに、各コースを整備し、活動場所の有効利用を図った。
- ② 利用しやすい施設づくり
 - ア 自然の家の持つ課題をつかみ、利用者主体の施設運営のあり方を理解するため、研修会や自己研鑽に努めた。
 - イ 利用団体の多様なニーズに応えられる所員の援助方法や柔軟な姿勢のあり方について研究をした。
- (2) 助言・意見の具現化と運営の確立・改善
 - ① 関係諸機関の助言の具現化
 - ア 運営委員会等諸機関の助言を受け、所の運営確立改善の指針とした。
 - ② 利用団体の意見の具現化
 - ア 各利用団体の代表者に引率者記録票を記入してもらい、意見・要望を分析し、可能な限り所の運営に生かすよう努力した。
- (3) 活動種目の開発
 - ① 海浜の特徴を生かす活動の研究
 - ア 海藻・魚介類・小生物を調査研究し、海浜（磯）活動の充実を図った。
 - イ 年間を通じて実施できる海浜活動の種目の研究をすすめた。
 - ② エリア内活動種目の開発
 - ア 冒険の森・野営場等エリア内を使って実施する野外活動ゲームの開発に努めた。
 - イ 冒険の森各コースを整備するとともに、新コースを作るなど活動の範囲を広げる努力をした。
- (4) 主催事業の開催と魅力ある事業の開発
 - ① 特色ある主催事業の開発
 - ア 事業内容を吟味するとともに、参加者の年齢構成に応じた活動場面を設定するなど、興味・関心を示す主催事業を展開するよう努めた。
 - イ 主催事業を通じて、自然や他団体・家族との交流・ふれあいが深まるような場面を設定した。各主催とも多くの参加者があり好評であった。
 - ウ 学校団体・社会教育関係団体等の体験宿泊の内容を吟味し、利用時の活動に直結する活動を多く取り入れた。
 - ② 関係諸機関との連携による事業の開発
 - ア 教育委員会、教育事業所、公民館等、各機関との連携による特色ある事業の開発に努めた。
- (5) 広報活動の充実と利用団体の拡大
 - ① 広報活動の充実
 - ア 利用促進を図るため、市町村教育委員会、公民館等社会教育施設、各報道機関との連携を図りながら、積極的な広報活動を展開した。
 - ② 利用団体の拡大
 - ア 利用手続きの簡略化（様式の簡略化）に努めた。
 - イ 施設見学の積極的な受け入れを図った。
- (6) 安全管理の徹底
 - ① 施設・設備の安全点検

- ア 定期点検の励行に努めた。
- イ 随時補修の徹底を図った。
- ② 給食施設・設備の衛生管理
 - ア 給食委員会等給食委託業者との打ち合わせを随時実施し、食中毒の防止に努めた。
 - イ 厨房等の点検と食品の衛生管理の徹底を図った。
 - ウ 野外炊飯、弁当給食時の衛生対策の徹底を図った。
- ③ 利用者の安全確保と事故防止
 - ア 利用者の健康状態の把握と有事の場合に迅速に対応できる体制づくりに努めた。
 - イ 活動場所の安全確保とコース点検の徹底を図った。
- ④ 火災予防体制の強化
 - ア 消火・避難訓練を計画的に実施した。
 - イ 山火事防止の呼びかけとエリア内の防火パトロールを実施した。
 - ウ 消防施設の自主点検と委託業者、消防署との連携強化に努めた。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

いわき市久之浜町山之網字向山53

2 宿泊定員

- 本館定員 300名（和室28室）
- ロッジ定員 150名（15棟）
- テント定員 100名（25張）

3 敷地面積

- 363,236㎡

4 建物面積

- 6,949.94㎡
- 中心施設
 - 本館（宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等）
 - 体育館
- 野外施設
 - 管理棟、ロッジ、炊飯棟、便所等

5 野外活動施設面積

- つどいの広場 7,000㎡
- 多目的広場 8,890㎡
- 自然観察園 4,050㎡

6 設備備品等

- 体育館（バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面、バドミントンコート2面、卓球台2台、ピアノ1代他）
- 野営場（野外炊飯・キャンプ用品一式、冷蔵庫他）
- 野外活動設備（フィールドアスレチック 20ポイント、トリムコース 7ポイント、営火場 7箇所、冒